

**平成 29 年度実践力養成型（寺子屋式）インターンシップ
企業振り返り会の実施について**

平成 30 年 2 月 27 日（火）ならびに 3 月 2 日（金）の 2 日程にて、平成 29 年度実践力養成型（寺子屋式）インターンシップの「企業振り返り会」を開催した。

なお、本研修では、本年度の受入企業だけでなく、次年度の受入候補となる企業・団体の担当者も参加し、意見交換・情報交換を行う場とした。

(1) 日時

- ①平成 30 年 2 月 27 日（火） 事後研修：14:00～17:00 情報交換会：17:30～19:00
- ②平成 30 年 3 月 2 日（金） 事後研修：14:00～17:00 情報交換会：17:30～19:00

(2) 場所

- ①徳島大学地域創生・国際交流会館 3 階 共用室 302・303
- ②徳島大学地域創生・国際交流会館 5 階 フューチャーセンター「A.BA」

(3) 参加者

- ①平成 30 年 2 月 27 日（火）
 - ・本年度受入企業担当者 ：10 名（6 社）
 - ・本年度ドン（学内メンター） ：1 名（1 社）
 - ・本年度インターンシップ参加生：1 名（1 社）
 - ・次年度受入候補企業担当者 ：10 名（5 社） 合計 22 名
- ②平成 30 年 3 月 2 日（金）
 - ・本年度受入企業担当者 ：9 名（5 社）
 - ・本年度ドン（学内メンター） ：2 名（2 社）
 - ・次年度受入候補企業担当者 ：7 名（6 社）
 - ・大学関係者（教員） ：2 名 合計 20 名

(4) プログラム内容

| 時間 | 項目 | 内容 |
|-------------|-----------|--|
| 14：00～14：15 | 自己紹介 | 参加者それぞれが自己紹介を行う |
| 14：15～16：00 | セッション I | ・学生振り返り会情報共有 ・平成 29 年度 実践力養成型（寺子屋式）インターンシップ事業に関する企業評価 |
| 16：20～16：40 | セッション II | ・大学の役割と社会変化 |
| 16：40～17：00 | セッション III | ・プロジェクトのプレ組成 |
| 17：00～17：15 | アンケート記入 | |

①セッション I

セッション I では、2月18日（日）に実施した「学生振り返り会」の内容を伝達し、本インターンシップの性質及び環境設定について再度確認を行った。さらに、事業成果、組織変化の2つの側面から、本インターンシップの企業評価を行うワークを実施した。事業成果は受入企業によってそれぞれ異なるが、組織変化としては、若手社員の育成や社内コミュニケーションの円滑化がどの受入企業からも挙げられた。

また、多くの受入企業担当者から、学生との関わり方が難しかった、との意見があがったため、「学生とはどういう生き物か」について考えるワークも実施した。

②セッション II

セッション II では、「大学の役割と社会変化」をテーマとして、社会変化に伴う大学の役割について共有した。

③セッション III

セッション III では、今後の大学の役割を踏まえた上で、実践型のインターンシップ導入による企業にとっての価値を伝達し、自社の課題を抽出するためのワークを行った。



セッション I でのグループワークの様子



セッション I でのグループワークの様子



「学生という生き物とは」を考えるワークの様子 本年度の取り組み成果を眺める次年度受入候補企業の方

(5) アンケート回答 (抜粋)

①今日の振り返り会に参加されてのご感想をご記入ください。

<受入企業担当者>

- ・人工動態や社会構造の変化を踏まえ、求められる人物像について論じられた資料は明快で、是非参考にさせていただきたい。
- ・インターンシップを計画やねらいを具体的にした上で進める重要性を感じた。
- ・プロジェクトごとに様々な成果や組織の変化、また思わぬ効果があったことが非常によく分かりました。私のグループには社長・役員・中間管理職・若手社員、1年目の社員が参加しており、それぞれの立場・視点でインターンシップを見ていたと思う。自分自身にとってもいい刺激となり、個人的な話ですが”こんな風になりたい”という将来の理想も見えた。
- ・地方や会社にとって存在意識、インターンの必要性・重要性がよく分かった。同じインターンを受け入れた色々な企業の方と話ができて、次のインターンに活かせられると思った。他の企業とのつながりを持って、新事業や本業にも活かせられると思った。
- ・次回のプロジェクト内容を考える良い機会になった。

②今回の実践力養成型 (寺子屋式) インターンシップの成果について、どのように考えられているかご記入ください。

<受入企業担当者>

- ・進めてみたいが二の足を踏んでいる事業を試験的に行うことに向いていると感じる。後は出た成果やその副次的効果を企業側が有効に利用できるかどうかだと考えている。
- ・当初目標にしていた目標に加え大学内でのビジネスマナー講座や社内における影響もあり非常に良かった。この成果の種を継続して取り組み、インターン生に自分たちの種が生長した姿をみせなくてはと考えてる。
- ・①Win-②win-③win が成立するプロジェクトも見られており、互いを刺激するよい取り組みだと思う。
 - ①：大学 (新教育プログラム)
 - ②：企業 (社員の意識改革、新しいトライ)
 - ③：学生 (学生の成長)

<次年度受入候補企業>

- ・十分に達成されたプロジェクトとそうでないプロジェクトがあったようだが、これらのインターンシップを通して、何を得るか、どのように得るかは、企業側の努力が必要と感じた。学生の力をいかに発揮させるかがポイントと考える。

③そのほか、実践力養成型（寺子屋式）インターンシップに参加されてのご意見・ご感想・ご要望がありましたらご記入ください。

<受入企業担当者>

- ・他の企業の方々と交流する場が想像以上に多く、良い刺激になった。
- ・今回の振り返り会は必要だと思うので、またこうした機会を作って頂きたい。
- ・他の受け入れ先企業ももちろんですが、他のインターン生との交流会などもいいかもしれない。
- ・途中経過での他社との交流はやってみたい。
- ・大学－企業－企業、企業×企業の相乗作用のあるネットワークとなることを願っている。
- ・学生同士の交流、企業同士の交流、学生・企業の交流を増加させ、どのような意見が出たのかを共有してほしい。